

酒々井町 郷土研究会々報

昭和61年4月1日 発行
酒々井町郷土研究会 編集部

年中行事 (五)

彼岸会

暑さ寒さも彼岸までという言葉
葉があり 昼夜等分の季節の境
目でもありますが、その彼岸も
過ぎたところで、彼岸会につい
て振り返ってみましょう。

彼岸会とは春分、秋分の日を
中日として前後三日づつ計七日
間を彼岸といつて、仏の行事を
する日となっています。

彼岸はお盆と違って新も旧も
なく、行事も華々しいものはあ
りません。しみじみと仏に対し、
法要する日といえましょう。

彼岸会の行事は、平安時代に
諸国の因分寺の僧に金剛般若経
を唱えさせたのが始まりといわ
れており、千余年の歴史があり
ますが、その目的は、「生死の境
を此岸として現世の煩惱を解脱
し涅槃の世界に到着すること」

云々とある書にありますが、要
するに、仏の菩提を弔うことの
ようです。

彼岸会の七日間は仏事をする
日でありますから、彼岸中は仏
事以外で他人を訪ねることは遠
慮するのが常識といわれています
した。特にお祝いごとや病氣見
舞は禁物とされております。



お寺さんは彼岸中に檀家をめ
ぐり仏壇で供養の読経をします。
その際にその家では御礼の布施
をするのが一般の習慣となつて
おります。

各家庭でもまず墓掃除をして

墓参りをしたり、仏壇にはだん
ごや牡丹餅(お萩)その他の珍
らしいものなどを供えます。
先祖の年忌や供養も彼岸中に
多く行われます。

彼岸参りは自家ばかりでなく
これを機会に親戚知人の墓参も
して故人を偲ぶのもよい供養で
あります。

桃の節句

三月の声とともに桃の節句が
やって参ります。桃の節句は雛
まつりの別名で女の節句であり
ます。

雛を飾り、桃の花、白酒、菱
餅、雛あられ、さくら餅などを
供えてお祝いをします。

雛まつりの歴史は古く、平安
時代に貴族社会では既に行われ
ていたといわれますから千余年
の歴史をもっているわけです。

当初のころはすべて紙雛の立
雛であつたといわれますが、實
素なものであつたらうと想像さ
れます。

時代が下るに従って貴族から
武士階級や豪商などに伝わり、
一般庶民の間に伝わつたのは江戸

時代末期のころといわれており
ます。



折紙雛

木村千里様作品より

大正から昭和初中期ごろまで
酒々井地方で節句を祝つたり祝
われたのは一般的には長女だけ
でありました。次女、三女とな
るとほんの内祝にとどまってい
ました。

長女の初の節句には親元(母
親の里方)からは内裏雛が贈ら
れて来ます。これに対し他の親
類縁者からは掛軸、官女、五人
囃子、左大臣、右大臣、藤娘、
汐浪みなどが贈られて雛段が飾
られたものでしたが、近年は諸
事派手となつて親元からは豪華
な雛段つきの雛人形一セット贈
られるのが普通となつてきたよ
うです。節句中は一座敷雛人形
で埋つてしまふ華やいだ光景も
見られます。

これに対し住宅事情を考慮してミニセットも流行しているとのことでもあります。

節句のお祝いを頂戴した家ではお返しとしてさくら餅を配りまた親元や親戚を招待して祝宴を開くのが一般的となっております。



古川 今子
カタクリ (ユリ科)

南風にもろくも消えてしまつた雪の下からは 長い冬の間におしつぶされていた枯草がみにくい姿を現わす。その間を鮮やかに彩つて咲くこの花の美しさ。

まっすぐに立ちあがった七八穂位の細い茎が頂上から美しい曲線を描いて下向きに曲つたかと思つとその先にびんと反り返つた紅紫色の花びらが 少女のまつげを思わせる黒いオシベをここんでうっむいて咲いている。その姿はまことに山草の代表的存在である。

昔その鱗茎から本当の片栗粉をとつたものであるという。良質の澱粉のかたまりである。だから、これを天ぷらなどにして食べるとうまいわけである。



もつともこれは深いところにあつてとるのは大変である。ひっぱれば抜けてくるこの若芽の方は、味噌和え ひたし物 天ぷら、汁の実にして親しまれてくせもなくさっぱりした山菜である。

酒々井町付近でも群生しているところがあるときいていいる。私も十何年前に買求めたものであるが毎年可愛い姿を見せてくれるのを楽しんでる。

イカリ草 (メギ科)

わらびやせんまい採りに気をとられて夢中で歩いてほつと一息つくとき 足元にイカリ草の群落がよく有る。

葉は少しいびつになつた長め

のハートの形で、この葉が三つに枝分かれした茎に三枚ずつつくとで見分けやすい。一寸と紫がかつたピンク色をしており、花は直径二センチ位で、錨をつるした形をくくりなりの面白。



山辺の低きにむれるや いかり草
春深し いかりの花あり わらび取り



「ひらいた ひらいた 何の花がひらいた レンゲの花がひらいた」と子供の頃にうたつた レンゲの花が、吾が町

酒々井にも 四月二十日頃から次にあがる地域で咲きだすことでしょうか。

どうぞ御家族お揃いでピンクのじゅうたんを楽しんでください。

- ① 中平橋付近農道
- ② 新堀下揚水機場付近
- ③ 東酒々井四丁目付近休耕田

その他です。

きつと御年配の方々には、昔の子供の頃をなつかしく思い出されることでしょうか。

お子様方には、始めての経験とさせてあげられることでしょうか。

なお、この関連記事は、郷土研究会々報第三十七号(六十年七月一日発行)第一三十八号(六十年十月一日発行)にのっておりますので、お読みになつて下さい。





上岩橋の長福寺(上郷)は真言宗大仏頂寺の末寺であります。長い間無住寺となつて居るお寺であります。歴史は古く室町時代に既に存在した記録があります。

このお寺の本尊は阿弥陀如来。脇侍として毘沙門天と広目天とがあり、この脇侍は室町時代の作として町指定文化財となつておりました。

阿弥陀如来



平安仏の発見

相京晴次

は予期しないことでありましたので立会った文化財審議委員や檀家総代の方々もびびりくりました。

これ、長福寺には三軀の有力な文化財が確認されたわけであります。今後これをどう取扱つてゆくかが大きな課題となっております。

この程再調査することになり、仏像研究の権威者である東京国立博物館の資料部長田辺三郎助先生を招聘して観てもらいましたところ、脇侍の一軀は持国天であり鎌倉時代の初期の作であること、一軀は多聞天で鎌倉末期の作であることが確認されましたが、さらに本尊の阿弥陀如来は平安時代の作であることが判りました。



多聞天

持国天

むかし アソビ
あそび 遊び (十)

宮本 博司

いちじく 桑の実
さくらんぼ 砂糖の実
いちじくといつても山かけ等に刺のついたいちじくである。黄橙色の小さな粒のかたまりで一つの実になつて居る。口の中に入れると甘酢はいい味がする。



桑の実は紫色に黒ずんだ小指大一寸味にくせがあるがよかつまんだ。口のまわりが青くなる程食べた。「あまみり食うと疫痢(子供のかる伝染病)になるぞ」と母親に注意された。



さくらんぼと言つても黒桜の実である。パチンコの玉より小さい可愛らしい実である。青から赤くなり、そして紫色になる。その頃が食頃、小鳥が食へるが子供も食べた。



砂糖の実 は 糠稷木の木の実である。実の大ききの割に種が大きい。この実をよく椋鳥が食へている。地面に落ちたものでも名刺のとおりに甘い。



見学会について

皆様好評の見学会も今回と回を重ねてまいりましたが、今後も年間行事計画の通り実施しますので、期待下さい。つきましては見学会の申込以後の取消しにツマは、見学会実施日の二日前までにして下さい。当日のお弁当のキャンセルが出来ませんので、ご理解と協力下さいますようお願い申し上げます。



見学記

磯山 清一

見学の目的地は六ヶ所あってその所在地は一つの町と二つの村で栄町、本笠村、印旛村である。この一町二村は酒々井町と同じで、すべて成田市に隣接している。いかに近いか分る。

そのように近いところなのに私が今日の行き先を一つも知らない。はじめてというのはいいものでそれなりに期待がもてる。目的の六ヶ所は師戸城跡公園、岩戸泉福寺、角田栄福寺、松虫寺、安食間門、大鷲神社である。

この日の行程でバスが走ったと感じたのは往きと帰りだけであとは徒歩で回つてもいい程の距離でバスの座席を温める間もなかった。先に書いたような順に見学して、みるうち悪い天気予報がヒタリと当って安食間門と大鷲神社あたりで雨とになった。

これが今日一日の概要だが紙面の都合ですべてを書けない。公園と松虫寺の二つをとりあげて他は割愛する。

先、師戸城跡公園だが簡単に言うと印旛沼(曲沼)に面した起伏の多い丘である。なまは四〇〇〇平米というので昔の約五千歩に当る。戦国時代の争乱に巻きこまれた古戦場だといふ。城跡といふものは石の産地

かたがて石垣の跡はない。公園としては新しいもので完成し間もない感じである。建物植えたばかりの苗木のような樹木ばかりだ。この公園の特異なのは空と水である。眺望のきこころに立つと遙かにみすんで左右に広がる沼の雄大と限りなく広い空に圧倒される。

次は松虫寺を遊ぶ。この寺は七四五年(天平七年)創建でその創建については故事未歴がある。聖武天皇の第三皇女不破内親王つまり松虫姫が重い病にかかれた。その時薬師如来のお告げで坂東の下総に下り薬師如来に祈られらる平癒した。天皇は大いに喜ばれ一寺を建立して松虫寺と名づけられたという。



今見るこの寺は山門も本堂も相当ににたんでいて毀損剥落が目立つ。この寺で眼をひくもの一つに樹木がある。老木が多い。千年位の木もあるのではないが、芭蕉の句に「此の松の 実生せし代や 神の秋。」

厚生園から

順 天堂

木村 千里

京成佐倉駅で下車。佐倉名物の坂をあそびあそび(同行の皆様は娘さんと登り甚大寺へ。そこには堀田様のお住いがありました。境内には正倫公、正睦公、正恒公のお墓があり、梅の香がほのかに温かく墓石を包んでいました。

最上町を出て着町、間の町を通り野狐台町の厚生園へ。(旧堀田邸)

昔、麻賀多神社のうしろにあった小学校の全校生徒は毎年牡丹見に堀田様へ招待されます。女生徒は紫かえび茶色の袴をつけ、新しい麻裏草履か竹の皮草履をはき、手製のカバンにお弁当を入れ右肩から左へ下げて二人一つ手をつなぎワイワイとガヤク。

横町、上町、二番町、仲町の家々の軒下には家中総出で生徒の通りを見えています。静かな町のことですからお祭りさわやかです。堀田様の黒い御門が見えると生徒達はひたりと静まり神妙な顔になります。牡丹を拝見してお返し廻り、お殿様の御言葉があり、校長先生の注意があつて自行動、起伏のある庭の養生をどうしようかたり、すべつたり上りたり、思ひこもしたり、そのさうな声は国鉄佐倉駅まで聞えたそうです。御前様(おは

あ様のこと)と御遊覧がお出すになつて、にこにこして立っておられたこともありました。お茶の接待のために縁台が出され、お茶碗が沢山なぐべられ、瀬戸引きの青い葉茶でついで水は次から次と切りかわり、係の人が天びんは何度も何度も運んでいました。ひねるとシャレード出る水道の現在では考えられないことですが、その水をおいしくいたいたものでした。今、その庭に立って見上げると空には雲一つありません。芝生に流れてくる日の光に春らしさを感じられる午後です。堀田様の建物はまじまじと雨どがしまり、時の流れをしみじみと感じさせられました。新築された厚生園の病室は白く大きく現実の風に吹かれて、芝生には入院患者が散歩しています。車椅子の女の患者を男の人が押している姿をあれは夫婦かしらと案じて見てみた人も、また、桜の蕾はまだまだですが何となく春間近と思わせる枝振です。



厚生園をあとにし、これでも道かしらと思ひ細い道を通り順天堂に出ました。医学は西の長崎、東の佐倉と言われた佐倉順天堂。展示の写真、古文書、手術道具の字を見ると、順天堂が盛んで近代医学の発

祥地としての意義に感入して、展示品中のあの骨切り巾のノゴリでゴリくやられては随分痛かったことでしょう。そして手術料は江戸後期金五兩だそうです。

順天堂門前で解散。大住倉駅まで歩いて電車に乗って帰りました。足がもつて歩くことの出来る幸せをしみじみとかみしめながら。



総会報告

昭和六十一年度郷土研究会定期総会が一月二十五日(土)、中央公民館に於いて開かれました。

昭和六十一年度事業・決算報告と昭和六十一年度の事業計画・予算案が承認されるとともに、会計二名を三名とする会則の一部改正が行われました。それに伴ない新会計には青木喜作、鶴岡知子、木村幸子の三氏が選任されました。

また長年、副会長として会の発展に尽力された木内忠次郎氏が顧問に推薦されました。

総会終了後、文化映画「十一万石の城下町住倉」の万葉の旅房総の二本が上映され、楽しい時を過しました。百三十名の方が出席され盛盛会裡のうちに終了しました。

郷土研日誌

新入会員紹介

61年3月1日現在

1月12日	東京下谷方面名勝探訪	参加者 18名	478 中台 常次郎
1月17日	同上	17名	479 子安 伸子
1月21日	役員会	24名	480 岡田 きみ
1月25日	定時総会	120名	481 福田 千代
2月1日	古文書学習会	11名	482 加藤 朝子
2月2日	石仏調査(大原橋)	9名	483 古川 くに
2月10日	七草粥と献立表作り	10名	484 勝地 富子
2月15日	七草粥と食べる会	63名	485 伊東 稔
3月1日	古文書学習会	10名	486 小倉 房
3月2日	見学部 役員会	11名	487 佐野 悦子
3月8日	野草の会 佐倉方面観察	23名	488 関谷 きぬ子
3月11日	印西方面見学会 A班	32名	489 落合 たの子
3月14日	〃 B班	25名	490 岡田 ふみ
3月15日	役員会	18名	491 石川 功
3月18日	印西方面見学会 C班	28名	492 松本 まり子
			493 浜野 忠
			494 上倉 さだ子
			495 井上 雪子
			496 吉村 幸子
			497 森田 芳信
			498 杉浦 すゑ
			499 阿部 つや
			500 西浜 倫子

事業名	説明
1 町内史跡めぐりハイキング	年1回 教育委員会と共催
2 史跡見学会	年5回 内訳(秋3回 春1回 泊2回)
3 古文書学習会	年10回 1月・8月以外毎月
4 神社石仏調査	年5回 1・11雨天資料整理
5 町内石仏めぐり	年2回 1・11雨天中止
6 野草の会 名勝探訪	年9回 1・11雨天中止
7 郷土史講座	年1回 教育委員会と共催
8 史談会	年5回
9 史跡文化財愛護活動	町内史跡文化財愛護率は年数回
10 れんげの摘種	年1回
11 会報発行	年4回 1月・4月・7月・10月発行
12 運営委員会	年間5回定期会議(4半期ごとの行事計画)
13 総会	1月25日(土) 第10回定期総会

会計報告

七草粥と食べる会		印西地区見学会(3回合計)	
収入 会費 500x63人	31,500-	収入 会費 1,000x85人	85,000-
支出 材料諸買物	18,800-	支出 幹事当り 3回分	50,310-
原田製菓	7,200-	バス代 3回分	24,000-
御膳 箸	4,000-	支出計	74,310-
その他	4,100-		
支出計	34,100-		
差引 ¥2,688不足	郷土研 印西	差引残 ¥10,690-	郷土研 印西

お耳拝借

年二回実施しております七草粥、山菜を食べる会の献立委員会が発足することになりました。皆様にも少しでもおいしく、楽しく会食したいにやしませんか。よろしくお考えをお願いします。

つきましては皆様の郷土料理や自慢料理にも取組んでみたいと思っておりますので、その節はよろしくご協力下さいますようお願い申し上げます。

乞御期待



測ってみました

印西方面の見学会はA、B班とも雨にみまわれ残念でした。C班はどなたの精進がよかったですか、よいお天気になりました。

ところでこの日歩いたのは何歩になるでしょう？

谷川勲さんの万歩計は八一五歩を示したそうです。ちなみに谷川さんより大股で歩いた方はそれ以下です。お上品に歩かれた方はそれ以上の数になります。

残念なことには口数は測れないので、近じか一口を何歩で歩けるかやってみるそうです。もし道で実測中の谷川さんに会われた方は、数をまちがえらると大変ですから声をかけることなく、心の中で温かく激励して下さい。

◎身近なニュース
お待ちしています

郷土研行事案内

	4月	5月	6月
古書学習会	5日(土) 午後1時30分 中央公民館	10日(土) 午後1時30分 中央公民館	7日(土) 午後1時30分 中央公民館
石仏調査 (石仏めぐり)	13日(日) 午前9時 中央公民館集合・雨天中止	18日(日) 午前9時集合 石仏めぐり 雨天中止	8日(日) 午前9時 公民館集合・雨天中止
野草の会 名勝探訪	26日(土) 山菜を食べる会 会費 500.- 定員 60名 申込受付 4月15日午前9時以後 町史編さん室	11日(日) 午前8時 15日(木) 京成酒々井駅集合 渋谷-NHK-陸競技場- 東郷神社-神宮外苑方面 雨天中止	15日 町内史跡めぐりと合流 (雨天中止) 代替22日(日)
文化財愛護	4月12日(土) 午後1時-中央公民館 午後1時30分-現地集合 墨・六所神社 さらしなしょうま群生地草刈り (雨天中止・代替4月19日(土))		
町内 史跡めぐり	6月15日(日) 午前9時30分-中川西蔵院集合・(雨天代替 6月22日(日)) 教育委員会共催 町内史跡めぐりハイキング 西蔵院-大鷲神社-柏木新光寺-下岩橋双体道祖神- 大仏頂寺-宗吾聖堂-宗吾参道 散解散 昼食を持参して下さい		
県内 見学会	5月22日(木) A班 (コース) 茂原市本郷 橘神社 - 一宮玉前神社 - 5月27日(火) B班 岬町法華寺 - 法興寺 (参加取消は2日前まで) 6月4日(水) C班 (会費 1,000円 中食代含む) 出発 午前8時30分 中央公民館前出発 申込受付 4月15日(火) 午前9時以後 町史編さん室 (96-1171)		

見学会案内

県内見学会

橘神社

日本武尊が東征の折、走水で入水した弟橘比売を哀れみ、比売の禰を埋めて陵を築いて祀った神社。

玉前神社

上総一の宮神社、皇室の尊崇も厚く、また源頼朝も信仰した神社で文化財も多くある。

法華寺

遠山の金さんの菩提寺、本尊の阿弥陀如来は室町時代の作で異国調であるのが珍しい。

法興寺

奈良朝時代の寺院址がある。遺物も多く保存されている。

名勝探訪

今回はNHKの見学が目玉です。終って、テレビに度々出る代々木公園園中にある碑なども見ながら明治神宮へ、拜殿のすぐ横から入ってお参りします。

大鳥居から原宿へ、マンガの街竹下通りを歩きながら適当な食堂を見つけて昼食をとります。終って、東郷神社へおまいりしたら、その先約一キロの神宮外苑へ。
東京オリピックのメインスタジアムになった国立競技場と明治天皇にまつわる絵や、遺品のある聖徳記念絵画館を廻ります。

ここで時間と足が許せば更に約一キロ先の乃木神社まで参拝したいところです。そこまで行っても、徒歩全行程約六・七キロです。当日をお楽しみに。



編集後記

三月一日 今年のはじめのウグイスの初鳴きを聞く。わが家のささやかな庭に、ミニ何年かウグイスがくる。はじめの頃は、ほんの覚つかない鳴き声で、日を



も訪問がなく、今年はどうかと待っていたら、三月の日に合せてかのように朝七時バツチの初鳴きであった。昨年の埋め合せのように、自信に満ちたホーホケキヨを小半日も聞かせてくれた。さては何処かで懸命の練習を積んできたらしい。(日記より)
私達会報委員が会報づくりになさって満一才。ハイハイからようやくヨチヨチ歩きになりました。皆様から発行日をまだかまだかと待たれるような会報になれる日を目標として頑張ります。